

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
年組	1年1組	教科書(発行所)	新 現代の国語 改訂版(三省堂)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		
4	1 わかりあうために ・言葉と声で表そう ・届く言葉、届かない言葉	・写真を見て想像力をはたらかせ、表情の特徴を見いだす。 ・心に届く言葉とはどのようなものかについて考える。	○	○	学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
5	2 確かな情報を伝えるために ・情報は創られる ・ひとまず、信じない ・情報を編集し、的確に発表する	(中間考査)	○	○	
6				○	
				○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
7	3 情報を生かすために ・人が死なない防災 ・評価した情報をまとめる	・筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・ハザードマップから、相手と目的に沿って情報を取り出し、再構築し、報告書などに書き換える。		○	学習の方法 1 論理的文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。
8				○	
9	4 よりよい読み手になるために ・読むことのレッスン ・水の東西	・比較対照して説明することの特徴と留意すべき点を知る。 ・東西文化の違いについて興味を喚起し、自らの考えを深めたり、興味関心を喚起したりする。	○	○	
		(中間考査)	○	○	
10	5 場に応じて伝えるために ・構成や展開を意識して発表するープレゼンテーション ・中身当てクイズ	・「根拠を明確にして考えを伝える」ためにはどのような方法が必要か考えさせる。 ・聞き手を意識したプレゼンテーションの方法を学ぶ。		○	評価の観点
11	6 説得力を高めるために ・「まるごとのあなた」を	・引用の目的と意義を知り、自らの表現に生かす。	○	○	
11・12		(期末考査)	○	○	
12	・情報を整理して伝えるー「説明文」	・読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する。	○	○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
1	7 考えを共有していくために ・最短ルートは店の中 ・記憶の解凍	・AIと人間の違いについて知り、コンピュータを使用するにあたり留意することへの考えをもつ。 ・AIについての認識を深め、「記録」や「情報」と私たちの距離について考える。	○	○	
2	8 よりよい書き手になるために ・ありのままの世界は見えない ・情報を活用して説得的に書く	・事例と考えを自分の中で結びつけて読む。	○	○	
		(学年末考査)	○	○	
3		・自分の問題意識から情報を活用し、いいたいことを発見する。適切な事例の提示によって説得力のある書き方をする。	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	現代の国語 改訂版(大修館書店)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
				知	思	態
4	1 言葉を学ぶ「言葉のなかに生まれる」	人は言葉で社会をつくり、言葉によって生きているということについて考え、言葉の役割や働きについて考える。	○	○		学習の目標
	2 主張をとらえる「水の東西」	叙述を的確にとらえ、文章の要旨をつかむ。具体と抽象の関係を理解する。	○	○		
5	(中間考査)		○	○		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
	3 的確に伝える「伝わるように話す」「わかりやすく書く」	目的や場面に応じて的確にわかりやすく伝える。話し言葉、書き言葉の違いを意識する。		○	○	
6	4 意見を示す「発想を広げる」「意見を書く」	自分の考えを広げたり、整理したりする。根拠を明確にして、自分の意見を示す。		○	○	授業の進め方
	5 論理をとらえる「動的平衡としての生物多様性」	主張と根拠、推論のしかたに着目して文章の論理をとらえる。	○	○		
	(期末考査)		○	○		
7	6 効果的に伝える「工夫して話す」「興味を引く紹介文を書く」	相手の興味を引くように表現を工夫する。		○	○	1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。
	8 7 資料を解釈する『『人新世』における労働』	統計資料を正確に読み取る。統計資料を組み合わせた、比較したりして、それを根拠に自分の主張を行う。	○	○		
9	8 他者と交流する「理解を深める質問をする」「気持ちを伝える通信文を書く」	コミュニケーションが深まる表現や手段を考える。		○	○	学習の方法
	(中間考査)		○	○		
10	9 文章を比較する『『美しさの発見』について』	複数の文章や資料を比較し、考えを深める。人が見出す美しさについて多面的に考える。		○	○	1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。
	9 文章を比較する「本当の会話がSNSでできるか」	両者の主張と根拠を整理し、それぞれの著者が問題をどのように論じているか、理解を深める。	○	○		
11	9 文章を比較する「空気を読む」・『『個人』から『分人』へ』	両者を読み比べ、共通点と相違点などを考えることで、内容について自分の考えを深める。		○	○	評価の観点
	(期末考査)		○	○		
【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。						
12	10 他者を動かす「説得力のある資料をつくる」「資料を用いて発表する」	提案に説得力をもたせるため、必要な要素を押さえる。資料を活用した効果的な構成を工夫する。		○	○	評価の方法
	11 情報を吟味する「贅沢を取り戻す」	筆者がどのような根拠と論拠でどのような主張をしているのか、その妥当性や信頼性を丁寧に吟味、検討する。	○	○		
1	11 情報を吟味する「言葉についての新しい認識」	他者の主張の妥当性や信頼性を吟味する。他者の主張をふまえて、自分の考えを示す。		○	○	1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析
	12 考えを深める「白」	目的に沿って主体的に情報を集めたり、それを発信したりすることとおして、考えを深める。	○	○		
2	(学年末考査)		○	○		
	12 考えを深める「作業ロボットの悲劇」	目的に応じて文中の情報を関連づけながら内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深める。	○	○		
3	12 考えを深める「対話と共話」	主張と根拠など情報と情報との関係について理解し、読み取った情報を活用する。		○	○	
	(期末考査)		○	○		
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	
年組	1年 1組		教科書(発行所)	改訂版 新編 言語文化(数研出版株式会社)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		項目
4	地域の「ことば」 とんかつ	作品の内容を踏まえ、登場人物のその後の行動を想像して話し合う。		○	○	学習の目標
	古文の世界を楽しむ 古文に親しもう	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○	○		
5	日本語の中に生きる漢文 訓読のきまり・格言	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	○	○	○	授業の進め方
	受け継がれる古文 「羅生門」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○		
6		(中間考査)	○	○		1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉えその論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深く発展させる。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
		(期末考査)	○	○		
7	古文の世界を楽しむ 『宇治拾遺物語』 「兄のそら寝」	積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとする。		○	○	学習の方法
8	故事と成語 「助長」「虎の威を借る狐」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○		
9	詩歌を味わう 「六月」「サーカス」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	○	○		1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。
		(中間考査)	○	○		
10	現代にも生きる教え 『徒然草』高名の木登り	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。		○	○	評価の観点
	和歌が作り出す世界 『万葉集』『古今和歌集』	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。		○	○	
11	故事と成語 「管鮑の交わり」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。	○	○	○	【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
11・12		(期末考査)	○	○		
12	「ことば」を吟味する 「舟を編む」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		○	○	評価の方法
1	昔と変わらない人の心 『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。		○	○	
2	漢詩を味わう 中国の漢詩「春暁」 「山行」「春望」	作品中の表現をもとに、日本文化と中国文化の類似点・相違点を考察する。	○	○		1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。
	論語のことば 『論語』	落語と、その素材になった漢文のそれぞれについて、あらすじを調べてまとめる。		○	○	
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3
年組	1年2組	教科書(発行所)	改訂版 言語文化(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	歴史的仮名遣い、現代と意味の異なる語、文法の違いに注目する。動作主を確認し、話の展開をおさえる。児の心情をまとめる。	○	○	
	漢文入門 「入門一・二」	漢文の口調に慣れ親しむ。訓点、再読文字、置き字のきまりに習熟する。	○	○	
		(中間考査)	○	○	
5	近代小説(一) 「羅生門」	作品の舞台設定を読み取る。下人の心理の変化を把握する。老婆の論理の内容を理解する。		○	○
				○	○
6	説話『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	用言の活用について理解する。良秀の考え方をおさえ、説話の面白さ考える。	○	○	
	故事「漁夫の利」	音読や書き下しを行う。寓話の内容を理解する。	○	○	
		(期末考査)	○	○	
7	現代小説 「初恋の」	登場人物の関係の深まりを理解する。物語の中軸となる主題を押さえる。		○	○
				○	○
8	歌物語 「伊勢物語」	男の心情を考える。和歌を解釈し、主題を考える。和歌の修辞を理解する。	○	○	
			○	○	
9	故事 「矛盾」 「狐借虎威」	故事成語に基づく寓話の内容を理解する。訓点や置き字に注意して、音読や書き下しを行う。	○		○
			○		○
10		(中間考査)	○	○	
	詩歌 「サーカス」 「I was born」	詩の工夫に着目する。詩に描かれた人物の生き方について考える。		○	○
				○	○
11	随筆(一) 「徒然草」	具体例と主張の部分を区分して読む。作者の主張をまとめる。助動詞の用法を理解する。	○	○	
	史伝 「管鮑之交」	重要語に注意しながら本文を読解し、登場人物の心情を読み取る。	○		○
11・12		(期末考査)	○	○	
12	近代小説(二) 「城の崎にて」	各場面における主人公の心情を理解する。生と死について自分なりの考えを持つ。		○	○
				○	○
1	日記文学 「土佐日記」	日記文学について把握する。表現の面白さ、作者の心情を理解する。	○	○	
	軍記物語 「平家物語」	軍記物語の特徴を確認する。登場人物の言動を根拠に、心情や人物像を考える。敬語について理解する。	○	○	
2	思想 「論語」「孟子」	「論語」の思想に触れる。日本の言語文化との関わりについて理解を深める。	○	○	
		(学年末考査)	○	○	
3	詩歌 「短歌」「俳句」	短歌、俳句の基礎的な知識を学ぶ。詠まれている情景を読み取る。短歌を創作する。		○	○
				○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の進め方

1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。
2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。
3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。
4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。
5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。

学習の方法

1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。
2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。
3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。

評価の観点

【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法

1 学習態度の観察、点検
2 学習態度や課題、提出物などの確認
3 小テストや定期考査による分析

また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3
年組	1年3組	教科書(発行所)	改訂版 言語文化(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	詩歌 「I was born」	詩の工夫に着目する。詩に描かれた人物の生き方について考える。		○	○
5	古文チェックポイント①古文の基礎	古典を読むために必要な文語や訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		○
6	説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	歴史的仮名遣い、現代と意味の異なる語、文法の違いに注目する。動作主を確認し、話の展開をおさえる。児の心情をまとめる。	○	○	
7	入門 入門一・二	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との寒けについて理解している。	○		○
8	故事 「朝三暮四」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○	○	
9		(中間考査)	○	○	
10	近代小説(一) 「羅生門」	作品の舞台設定を読み取る。下人の心理の変化を把握する。老婆の論理の内容を理解する。		○	○
11	随筆(二)『枕草子』 「雪のいと高う降りたるを」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○	○	
12	史伝「先従隗始」	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。	○	○	○
13		(中間考査)	○	○	
14	現代小説 「初恋の」	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。		○	○
15	歌物語『伊勢物語』 「芥川」	男の心情を考える。和歌を解釈し、主題を考える。和歌の修辞を理解する。	○		○
16	漢詩 中国の詩 「静夜思」 「月夜」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○	○	
17		(期末考査)	○	○	
18					
19	近代小説(二) 「城の崎にて」	各場面における主人公の心情を理解する。生と死について自分なりの考えを持つ。		○	○
20	軍記物語『平家物語』 「木曾の最期」	軍記物語の特徴を確認する。登場人物の言動を根拠に、心情や人物像を考える。敬語について理解する。	○	○	
21	思想 「論語」	「論語」の思想に触れる。日本の言語文化との関わりについて理解を深める。	○	○	
22		(学年末考査)	○	○	
23	戦争小説「沖縄の手記から」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2
年組	2年1組・2組	教科書(発行所)	国語表現(大修館書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		
4	1 言葉と出会う 言葉と表記	仮名遣いや送り仮名、漢字や慣用表現など正しい表現の方法を理解する。	○		○
		(中間考査)	○	○	
5	整った文を書く	主述の関係、副詞の呼応、文末の表現の統一、整った文を書くために大切なことを理解する。	○	○	
6	相手に応じた言葉遣い	話し言葉と書き言葉の違いやその使い分けについて理解する。	○		○
		(期末考査)	○	○	
7	1 言葉と出会う わかりやすい文を書く	係り受けや文末表現、敬語について正しい理解を持ち、その使い分けについて理解する	○	○	
8					
9	2 伝える、伝え合う 絵や写真を見て書く	取り上げる内容や話し方を工夫して、分かりやすく絵や写真を伝える方法を理解する。		○	○
		(中間考査)	○	○	
10	言葉で遊ぶ 俳句・折句	俳句や折句など、日本語ならではの表現の面白さや方法を理解する。		○	○
11					
11・12		(期末考査)	○	○	
12	5 メディアを駆使する 通信文を書き分ける	手紙やはがきなど、通信文の書き方を理解する。	○	○	
1	電話を使いこなす	電話を掛ける際のマナーや、音声だけの情報のやりとりの方法を理解する。	○	○	
2	電子メールを活用しよう	電子メールを用いた情報のやり取りの方法を理解する。	○		○
		(期末考査)	○	○	
	エッセイを書こう				
3		自分の感じたことや感情をありのままに書く。		○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

授業の進め方
1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり、深めたりする。
2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。
4 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。
5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

学習の方法
1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。
2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。
3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。
4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。

評価の観点
【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法
1 学習態度1 学習態度の観察、点検
2 学習態度や課題、提出物などの確認
3 小テストや定期考査による分析

また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2		
年組	2年2・3組文系		教科書(発行所)	高等学校 標準文学国語 第一学習社			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		項目	
4	現代小説(一) 調律師のるみ子さん		短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞の仕方を学ぶ。		○	○	学習の目標 1 社会生活に必要な国語の国語の知識や技能を身に着けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める。 2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えたり深めたりすることができる。 3 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉をとおして他者や社会と関わろうとする。
	現代の詩生命は そこにひとつの席が そこにひとつの席が		近代詩・現代詩の鑑賞の方法を学ぶ。想像力を豊かにする。 (中間考査)	○		○	
5	現代の小説(一) ディーク		小説を自分に引きつけて読み、人間に対する深い感受性を養う。		○	○	授業の進め方 1 文学的な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 2 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。 3 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集し整理して表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
6	現代の詩 そこにひとつの席が		詩の比喩に注目して読み、自分と他者の関係性について理解する。 (期末考査)	○		○	
				○	○		
7	戦争と文学(一) わたしが1番きれいだったとき		詩の構成を考え、登場人物の心情をつかみ、詩の主題を理解する。		○	○	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 表現するための文字の特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。
8	現代の小説(二)ナイン		登場人物の表に現れない心情を読み取り、人間の関係性の深浅について考察する。 (中間考査)	○	○		
9				○	○		評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
10	随想〈芸術〉 花のいざない		日本の伝統文化についての抽象的な内容がどのように説明されているか理解する。			○	
11	近代の小説(一)鼻		人生の目的や意味を、自分に引き寄せて定義するために「文学の力」があることを理解する。 (期末考査)	○	○		
11・12				○	○		
12	近代の小説(一)こころ		小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身に付ける。他者の体験や心情を自己の問題として捉え直し、人間の「生」の意味と意義を考える。		○	○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
1							
2	戦争と文学(一)春一伊ラクの少女シャミラに		対比的に配置された詩の構造を理解し、現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取る。 (学年末考査)		○	○	
	戦争と文学(一) バクダッドの靴磨き		登場人物同士の関係や心情を把握しながら読み、主人公の発言の背景にあるものを理解する。			○	
3					○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
年組	2年3組	教科書(発行所)	高等学校 論理国語(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	評論(一) 天然知能として生きる	筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について考えを深める。	○	○	
5	評論(一) 自他の「間あい」	言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。		○	○
		(中間考査)	○	○	
	評論(二) 「私」中心の日本語	具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。	○		○
6	評論(二) 日本人の「自然」	筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。		○	○
7		(期末考査)	○	○	
7	読み比べーコミュニケーション 対話の意味	コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。		○	○
8	実用文(一) 法にかかわる文章を読み比べる	二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	○	○	
9	評論(三) 手の変幻	筆者の完成や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。	○		○
		(中間考査)	○	○	
10	評論(三) 越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。	○	○	
	評論(三) 越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。	○	○	
11	評論(四) 働かないアリに意義がある	アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。		○	○
	評論(四) AI時代の社会と法	AI(人工知能)の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。	○	○	
12		(期末考査)	○	○	
12	評論(五) なぜ多様性が必要か	動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。		○	○
1	評論(五) 生体認証技術の発展とみらい	生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。	○	○	
2	評論(六) コミュニティ空間としての都市	情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。	○	○	
		(学年末考査)	○	○	
3	評論(六)「第二の身体」としてのメディアと技術	メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。	○		○
【備考】			a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b. 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3	
年組	2年3組 文系		教科書(発行所)	高等学校 精選 古典探究(第一学習社)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		項目
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」		著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	○	○	学習の目標 1 生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げた深めたりすることができるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」		現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	○	○	
5	随筆(一)『徒然草』 「よろづのことは、月見るにこそ」「あだし野の露きゆるときなく」		(中間考査) 争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。	○	○	
	故事・寓話「嬰逆鱗」「知音」		現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	○	○	
6			(期末考査)	○	○	
				○	○	
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」		物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。	○	○	学習の方法 1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめる。
8	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」		史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。	○	○	
9	物語(一)『大和物語』 「嫉捨」		和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。	○	○	
			(中間考査)	○	○	
10	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」		内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。	○	○	
11	名家の文章 「雑説」「売油翁」		本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。	○	○	
			(期末考査)	○	○	
11・12				○	○	評価の観点
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」		歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。	○	○	1知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 2 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 3 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
	1	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」		登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	○	
2		日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」		女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。	○	
	3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」		(学年末考査) 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。	○	
			○	○	評価の方法	
				○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	
年組	2年3組 理系		教科書(発行所)	高等学校 精選 古典探究(第一学習社)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
				知	思 態	
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」		著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	○	○	学習の目標
	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」		現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	○	○	
	随筆(一)『徒然草』 「よろづのことは、月見るにこそ」「あだし野の露きゆるときなく」		(中間考査) 争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。	○	○	
5	故事・寓話「嬰逆鱗」「知音」		現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	○	○	授業の進め方
			(期末考査)	○	○	
				○	○	
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」		物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。	○	○	学習の方法
	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」		史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。	○	○	
	物語(一)『大和物語』 「嫉捨」		和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。	○	○	
10	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」		(中間考査) 内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。	○	○	評価の観点
	名家の文章 「雑説」「売油翁」		本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。	○	○	
			(期末考査)	○	○	
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」		歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。	○	○	評価の方法
	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」		登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	○	○	
	日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」		女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。	○	○	
3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」		(学年末考査) 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。	○	○	1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
				○	○	
				○	○	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2		
年組	3年1・2組		教科書(発行所)	国語表現(大修館書店)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	4 自己PRと面接 自分を見つめて 効果的な自己PR 将来の自分を考えよう	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 事実や出来事を踏まえて、効果的な自己PRをする。	○	○	○	学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
5		(中間考査)	○	○			
6	4 自己PRと面接 志望理由を書こう 自己推薦書や学修計画書を書く 面接にチャレンジ	志望先について十分な情報を集める。調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結び付け、説得力のある志望動機を書く。		○	○		
7		(期末考査)	○	○		授業の進め方	
7	3 小論文・レポート入門 文章を読み取って書く 発想を広げて書く	自分の意見や考えを的確に伝えるために、論理の展開や文章の構成を工夫するなどして、小論文やレポートの書き方を学ぶ。	○	○		1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して自分の考えをまとめたり深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いなどの表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	
8							
9							
10							(中間考査)
11	5 メディアを駆使する 電子メールを活用しよう ネット社会との付き合い方 ネットを活用した情報収集	様々な通信文の形式を理解する。相手に応じた適切な言葉遣いや対応の仕方を理解する。			○	○	学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。
12		(期末考査)	○	○		評価の観点	
12	表現を楽しむ 5 「わが町自慢」のパンフレット作り	情報を適切に編集し、読み手を引きつけるようなパンフレットを作る。		○	○	【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使用している。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
1	6 会話・議論・発表 相手や場面に応じた会話 スピーチをしよう	場面に応じた言葉遣いを考える。ロールプレイで役割に応じて効果的な表現になるように工夫する。	○	○		評価の方法 1 学習態度1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。	
		(学年末考査)	○	○			
2							
3							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

学習の目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

授業の進め方

1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して自分の考えをまとめたり深めたりする。
2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。
4 目的や場に応じて、言葉遣いなどの表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。
5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

学習の方法

1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。
2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。
3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。
4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。

評価の観点

【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法

1 学習態度1 学習態度の観察、点検
2 学習態度や課題、提出物などの確認
3 テストや定期考査による分析

また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2
年組	3年2・3組文系	教科書(発行所)	精選文学国語(三省堂)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		
4	一 読むこと・書くこと・語ること 本を読むと路に迷う想像し物語ること	本を読むことの「幸福」について考える。 「想像力」のはたらきを理解する。		○	○
5	二 小説(一)ペルエポック靴	「私」の視点で描かれていることに留意して登場人物の関係を捉える。 (中間考査) 「靴」の意味を考えるを通して、自分のものの見方、考え方を深める。	○	○	○
6	三 詩歌永訣の朝渡り鳥一俳句十五句	表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 それぞれの俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する。	○	○	○
7	四 文学の共同制作連詩の愉しみヤングの連句連詩をつくる	文学の共同制作の意義を考える。 連句の詠み方・進め方を事例を通して理解する。		○	○
8					
9	五 小説(二)靴の話夏の花	「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解する。 「私」が目撃した原爆投下の光景を、時系列に即して理解する。		○	○
10	六 翻訳の言葉『雪国』の謎涙の贈り物	(中間考査) 優れた翻訳について考える。 文体の特徴や表現の特色に注意して作品を読み、翻訳小説の魅力について考える。	○	○	○
11	七 小説(三)檸檬舞姫	事物の描写に注目して、「私」の心情を理解する。	○		○
11・12		(期末考査)	○	○	
12	舞姫	手記形式に注目して、小説の内容を読み取る。	○		○
1	八 評論陰翳礼賛無常ということ	それぞれの評論について文体の特色を理解する。近代小説の文体の歴史的変遷について理解を深める。 (学年末考査)	○	○	
2					
3					
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

1 社会生活に必要な国語の国語の知識や技能を身に付けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める。
2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えたり深めたりすることができる。
3 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉をとおりて他者や社会と関わろうとする。

授業の進め方

1 文学的な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。
2 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。
3 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集し整理して表現する。
4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。

学習の方法

1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。
2 書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。
3 表現するための文字の特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創造的な活動を行ったりする。

評価の観点

【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

評価の方法

1 学習態度の観察、点検
2 学習態度や課題、提出物等の確認
3 小テストや定期考査による分析

また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
年組	3年3組	教科書(発行所)	高等学校論理国語(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		
4	評論(七)言語が見せる世界	具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、言語と認識の関係を理解する。	○	○	学習の目標 1 実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けるようにする。 2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
	評論(八)身体の個性	ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。		○	
5		(中間考査)	○	○	
	評論(八)いのちのかたち	主張に説得力を持たせるための論理展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。	○	○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 3 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
6	評論(九)リスク社会とは何か	リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のあり方について考える。		○	
		(期末考査)	○	○	
7	読み比べ ジェンダー化された身体の行方	社会的な話題について書かれた論説文を読み、その内容を基に自分の考えをまとめる方法を学ぶ。		○	学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創造的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりする。
8			○	○	
9	評論(九)コスモポリタニズムの可能性	「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。	○	○	
10		(中間考査)	○	○	評価の観点 a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b. 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
	評論(十)「である」ことと「する」こと	具体例と主張との関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。		○	
11	評論(十一)現代日本の開花	一般の開花と日本の開花との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。	○	○	
11・12		(期末考査)	○	○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
12	読み比べ ローカル鉄道の改革と地域振興	情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する方法を学ぶ。	○	○	
1	実用文(二)生徒会に提出する提案書の内容を検討する	与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。		○	
		(学年末考査)	○	○	備考 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
2					
3					

令和8年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3	
年組	3年3組		教科書(発行所)	高等学校 精選 古典探究(第一学習社)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
4	説話(二)『宇治拾遺物語』 「袴垂と保昌」	展開や表現に即して袴垂の心理を追い、そこから浮かび上がる保昌の人物像を理解する。	○	○		学習の目標
5	逸話『説苑』 「不顧後患」	古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取る。	○	○	○	1 生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わりようとする態度を養う。
6	評論(一)『俊頼髓脳』 「歌のよしあし」	和歌に関する多様な考え方の一端に触れ、公任が考える、世評とは異なる和歌の評価基準を理解する。	○	○	○	授業の進め方
7	漢詩の鑑賞 古体の詩 「長恨歌」	構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。	○	○	○	1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
7	物語(四)『源氏物語』 「夕顔の死」	長編物語としてのストーリーをたどりながら、『源氏物語』の話の展開のしかたや心理描写の巧さを捉える。	○	○		学習の方法
8						
9	諸家の思想『孟子』 「何必曰利」	『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解を深める。	○		○	評価の観点
10	諸家の思想『老子』 「小国寡民」	儒家と対立する道家の古典である『老子』を読み、古代中国思想について理解を深める。		○	○	
		(中間考査)	○	○		
11	物語(五)『大鏡』 「三舟の才」	歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。		○	○	評価の方法
	諸家の文章 「医薬談笑」	医薬の効能に関する二人の会話を読み、欧陽脩があげた例と、それに対して蘇軾が返した例の意味を理解する。		○	○	
12	諸家の文章 「賢母辞拾遺」	拾った大金をめぐる拾い主と落とし主の心理を読み取り、この騒動を裁いた蕭以道の判決の内容を理解する。	○	○		1 a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
		(期末考査)	○	○		
12	物語(六)『とりかえばや物語』 「父大納言の苦悩」	王朝文学の系譜に連なるさまざまな物語の中から、特異な設定の作品を読んで、古典への興味を広げる。	○		○	1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
1	史記の群像 「荊軻」	刺客が存在した時代背景を知り、荊軻を始めとする登場人物の心理とともに、秦王暗殺事件の顛末を読み味わう。		○	○	
2		(学年末考査)	○	○		評価の方法
3						
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						